

## 序章 震災の概要

2011年（平成23年）3月11日（金）14時46分に、三陸沖（北緯38度06.2分、東経142度51.6分、深さ24km）を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生した。この地震により、最大震度7を、栗原市で観測した。

この地震は、同3月11日に気象庁が「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」と命名し、後に内閣が、この地震と津波による災害を「東日本大震災」と呼ぶことを閣議決定した。

この地震により、太平洋沿岸で大規模な津波が発生した。この津波は、石巻市鮎川で7.6m以上の高さが観測された他、宮城県女川漁港で14.8mの津波痕跡も確認されている。また、国内観測最大の遡上高40.1mが、岩手県大船渡市綾里湾であったことが、東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループの調査により判明した。津波による浸水域としては、全国の561㎢に対し、宮城県内だけで327㎢と、58%を超える被害となった。

また、震災発生時には、国土地理院の電子基準点「牡鹿」（石巻市）が、東南東方向へ約5.3m動き、約1.2m沈下するといったことを始めとして、北海道から近畿地方にかけての広い範囲での地殻変動も観測された。

平成25年8月31日現在、宮城県では、人的被害として、死者が、直接死9,580人、間接死872人の計10,452人、行方不明者が1,297人、負傷者が重傷504人、軽傷3,612人その他29人の計4,145人となっている。

住家被害に至っては、全壊が82,892棟、半壊が155,097棟、一部破損が222,797棟、床下浸水が7,796棟に至った。非住家被害は、28,744棟である。

応急仮設住宅の状況として、2年5ヶ月が経つ平成25年8月時点で、入居戸数は39,306戸、入居者数は94,413人となっている。

また、平成25年9月10日現在、宮城県の被害総額は、約9兆1650億円に上っている。（東日本旅客鉄道の被害額を除く）



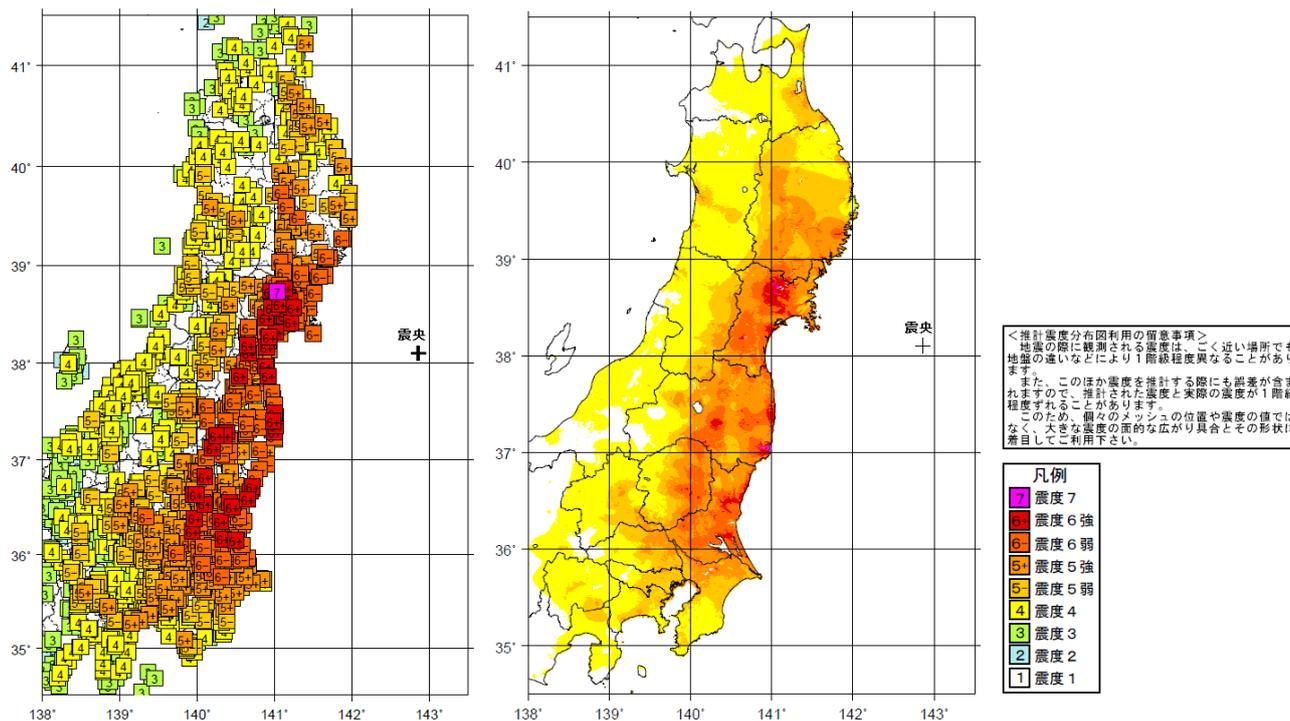
海水に浸かる石巻市街地



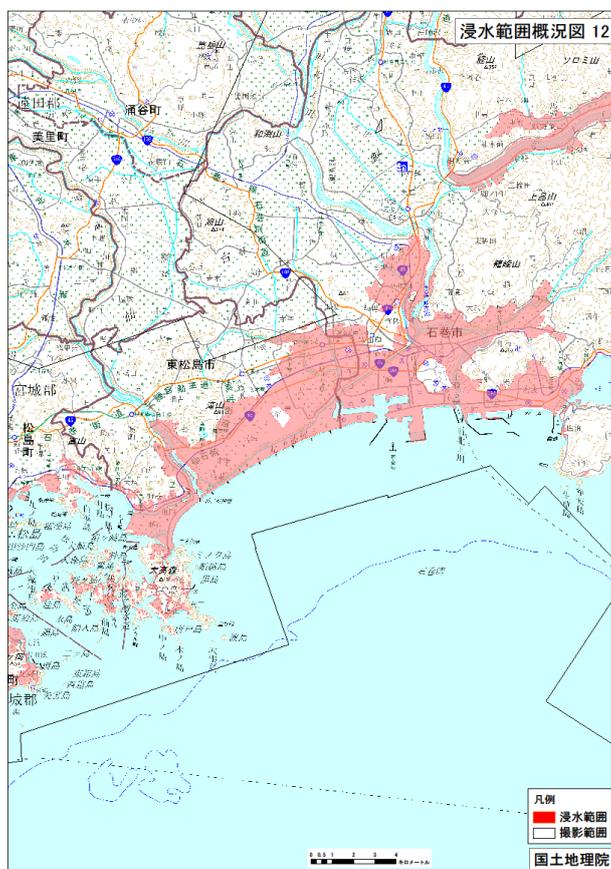
石巻東部浄化センター敷地内



旧北上川河口付近



震度分布図 (気象庁HPより)



浸水範囲概要図 (国土地理院HPより)